

## セト研第 15 回大会を迎えて

日本海セトロジー研究会（略称セト研）は、おもに日本海の鯨類やその他の海生哺乳類について、研究・普及・情報収集のためのネットワークをつくり、会員相互の交流と親睦を深める活動をするために設立されました。生物学・古生物学・水産学などの自然科学分野はもちろんのこと、歴史学・考古学・文化人類学などの人文・社会科学分野の研究者を含み、専門家から一般愛好者まで各界にわたる人たちから構成されております。このたび、大会開催 15 周年を記念し、石川県、金沢市、金沢医科大学、橋勝会（同大学後援会）の補助金を得て、公開講演会・シンポジウムと研究発表会を合わせた大会を発足地金沢で開催する運びとなりました。ご支援くださった上記機関をはじめとする皆様方に厚く御礼申し上げます。

当会は、1988（昭和 63）年 12 月 2 日～4 日シンポジウム『日本海と鯨類』（夢半島のと推進委員会主催、日本海セトロジー研究グループ主管）の開催をもって発足いたしました。七尾市民会館（第 1 日）・のとじま臨海公園石川県漁業研修センター（第 2 日）・能都町社会福祉会館（第 3 日）で開催されたシンポジウムは、実質的にセト研の設立大会を兼ねていたといえましょう。正式には 1990 年（平成 2 年）5 月 19 日に第 1 回大会が金沢市東御影町の旧・金沢水族館（辰口町徳山の現・いしかわ動物園の前身）で開催されました。金沢で開催されるのは、今回で 4 回目ということになります。

今回の公開講演会・シンポジウムの共通テーマは「日本海のクジラたち」です。これはどこかで聞いたようなテーマだと思われるかもしれません。まさにその通り。当会の定期刊行物『日本海セトロジー研究』の創刊号～第 7 号とクジラ情報紙『セトケン ニューズレター』第 12 号～第 16 号の副題には初代の代表・故山田致知先生による筆跡で「日本海の鯨たち」と書かれています。また、当会顧問・本間義治先生の著書『日本海のクジラたち』（考古堂書店、2003）にもあやかっています。この場合、「鯨たち」にせよ「クジラたち」にせよ、イルカもクジラも含んだ概念「鯨類」を意味しています。

「日本海のクジラたち」に魅せられてセト研に集う会員たちの関心は多岐にわたります。そもそも発足の舞台となった能登半島では、1980 年代に鯨類をめぐる注目すべき出来事があいつぎました。のとじま臨海公園水族館の開館、能都町真脇遺跡のイルカ多量出土、羽咋市滝海岸のコマッコウ漂着、七尾市大杉町のクジラ化石 1 体分発掘、そして極めつけは能都町・富来町におけるオウギハクジラ類の水揚げ・漂着です。その後も「クジラたち」の話題は尽きることなく今日にいたっています。今回の講演会・シンポジウム・研究発表では最新の情報をふまえた興味深い話を聞くことができるでしょう。

冒頭で用いた「ネットワーク」という言葉は意味深長です。インターネットを想起してみても分りますように、ネットワークというものは本質的に中央集権的ではありません。「結び目」の大小や硬軟はあっても、お互いラインで繋がっておれば機能します。一つの結び目が切れてしまっても、別回路で情報は伝わって行きます。できるだけ広い地域にネットを張り、網の目をできるだけ細かくしたほうが情報の把握・伝達はしっかりしたものとなるでしょう。全国各地にネットを張りめぐらせ、地域ごとにセトロジー研究会がつくられていくことが望ましいと思います。それらが結び合わされて“日本”セトロジー研究会となることを願っています。その曉には「日本海セトロジー研究会」はいくつかのブロックのひとつとして名を残すことになるでしょう。同様なことは世界的規模でも実現可能のことのように思われます。

平成 16 年 6 月 27 日

日本海セトロジー研究会代表  
金沢医科大学医学部人間科学科目(人文科学)教授  
平 口 哲 夫